

II 目的

1. 東北大学の基本理念・目的

東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念を掲げ、「実学尊重」の精神の基に、世界最高水準の研究・教育を創造し、その研究成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献することを基本的目的としている。

東北大学は、その使命を果たすために次のような大学になることを目指している。

(1) 世界最高水準の総合研究拠点の確立

- ・自然科学、人文科学、社会科学にわたる、幅広い分野において、世界をリードする研究成果を恒常的に創造する。
- ・知識の加速度的集積と知識基盤型社会の要請に応えるために、たえず最適の研究組織の編成を図る。
- ・国内外の主要研究機関との研究ネットワーク連携を整備するとともに、世界的総合研究拠点としての声望評価を確立する。

(2) 社会の発展と新たな知の創造を担う指導的人材の養成

- ・教員は、最先端の研究に従事しながら、その成果を教育に反映させる。
- ・すべての授業を「世界最高水準の教育拠点」にふさわしい内容と方法で提供する。
- ・新たな知の創造に必要な基礎知識と社会の指導者としての責任意識を涵養する教育を実施する。
- ・高度の国際性、専門知識、応用能力を備えた高度専門職業人を養成する教育プログラムと組織を整備発展させる。

(3) 世界と地域への貢献

- ・研究成果を社会に普及させ、指導的人材を社会に送り出すことによって、人類社会及び地域社会の発展に寄与する。
- ・資質と意欲があれば、誰もが、国籍・人種・性別・年齢・宗教・社会的階層等に関わりなく、平等に、学生・職員として受け入れられる機会を与える。
- ・「実学尊重」の伝統を踏まえて、産学連携を推進し、サイエンスパークを整備する。
- ・市民を対象にした教育や、専門知識を活用する相談サービス等の提供を、質・量ともに飛躍的に充実させる。
- ・キャンパスを市民との共生の場として開放するとともに、大学所蔵の図書・学術資料・施設等の知的資源・財産の社会的有効活用を図る。

(4) 世界最高水準の研究・教育拠点にふさわしい文化・環境・経営体制の整備

- ・世界最高水準の研究・教育を活性化するような学内の文化を保持・発展させる。
- ・キャンパスの景観の美的統一と自然環境との調和を図り、知的創造活動にふさわしい雰囲気醸成する。
- ・世界最高水準の研究・教育活動を柔軟且つ機動的に展開するのに必要な施設、人的・物的・財政的基盤及び経営体制を整える。

2. 東北大学が養成しようとする人材像とその実現方策

社会の指導的・中核的人材の養成を行うことを目指し、第一線で研究に従事する教員が、共通基盤教育をはじめ学部専門教育、大学院教育を行い、あわせて健全な課外活動を育成し、豊かな教養と人間性を追求し、「科学する心」をもつ行動力ある人材を育てる。

- (1) 学士課程では、基礎的な専門知識と語学・情報の活用力を備え国際社会で活躍できる人材を養成する。
- (2) 大学院課程では、世界水準の研究を理解し、これに新たな知見を加えることができる研究者を養成する一方、高度の専門的・実用的知識をもった高度専門職業人を養成する。

3. 各学部・研究科等の教育目的

各学部・研究科等は、全学の教育目的を基礎にして、さらにそれぞれの特性に応じた教育目的を設定して教育を展開している。これらは各学部、研究科等のホームページや学生便覧等で公開している。

以下、典型的な学部、研究科の教育目的を例示する。

文学部	現代世界が直面する複雑で困難な諸課題は、科学技術のみで解決を図ることは難しく、何よりも人間性への深い洞察に根ざした人文社会科学的知見を必要としている。
-----	---

	<p>そうした社会的要請に応え、人間性に対する鋭敏な感受性と現実社会に対する透徹した認識とを基盤に、国際社会の発展に積極的に貢献しうる、知性と行動力をもった人材の養成を目指す。</p>
教育学部	<p>理論的基礎に支えられた専門的知識と分析力を備え、現在社会が抱える教育の諸問題を総合的かつ系統的に把握し、その解決を具体的に推進しうる人材を養成する。</p> <p>学校教育にとどまらず、家庭教育・社会教育など教育に関する幅広い見識と深い洞察力を有し、さらには課題解決に向けての企画・実践能力を備えた人材の養成を目的とする。</p>
法学部	<p>法学・政治学に関する正確な基礎知識を身に付け、鋭い正義感覚と幅広い視野から社会に伏在する諸問題を発見・分析し、その解決に努めることをもって、良き社会の実現に貢献する人材、すなわち「法政ジェネラリスト」の人材の養成を目指す。</p>
理学部	<p>理学の基礎知識を修得し、大学院で高度の教育を受ける能力を持つ人材及び理学の基礎知識を活用し社会の広い分野において主導的役割を果たす人材を育成することを目的とする。</p>
医学部	<p>(医学科) 教員と学生相互の協調による強固な教育基盤の構築と、医学・生命科学の根元を解明する研究及び教育の実践により、豊かな人間性と旺盛な探求心を育み、人類の健康と福祉に貢献する指導的・高度専門職業人を育成することを目的とする。</p> <p>(保健学科) 人命を尊重し、豊かな人間性を持ち実践力を備え、人間としての生活の質(Quality of Life)の向上を大切にす医療人を育成することを目的とする。</p>
工学部	<p>人間と自然に対する広い視野と深い知識を基本としつつ、自ら考えて行動し、21世紀の科学技術の発展と革新を担うことができる、創造性豊かな人材を育成する。</p> <p>そして、工学の本来の目的である「人類福祉への貢献」、すなわち、基礎科学を基に、競争的協調を通じて人間の生活を豊かにするための応用科学・技術の探求を行いうる人材を養成する。</p>
文学研究科	<p>人文社会科学を構成する各専門分野の研究を通じて、人類文化の知的遺産を確実に継承するとともに、その創造的発展に積極的に寄与しうる研究者及び高度な専門的職業人を育成することである。</p> <p>そのような人材は、各専門分野における先端的な研究能力を修得するのみならず、幅広い学際的視野と卓越した国際的発信能力を備えていなければならない。</p> <p>人間の精神活動や社会活動への深い洞察力に基づいて異質の文化を理解し、高度の専門的知識を生かすことによって国際貢献をなしうる人材の養成を目指す。</p>
教育学研究科	<p>教育に関する高度な専門的知識・技術とそれらを支える理論的基礎を有し、社会的ニーズを敏感に察知するとともに、自ら問題を発見し、教育に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる人材の養成を目指す。</p> <p>特定の領域に関する専門的知識に加え、学際的な知識を駆使し、現代の教育問題の具体的解決につながりうる諸々の技術を同時に備えた人材；一時的な対症療法的アプローチではなく理論的基礎に支えられたアプローチと新たな理論を創造しうる人材の養成；社会的ニーズを敏感に察知し、理論的基礎に支えられた高度な専門的知識を適用しさらには、社会的には十分に認識されていない諸問題を発見し、その解決を推進する能力を備えた人材；を養成する。</p>
法学研究科	<p>法政理論研究専攻(研究大学院)では、社会をリードする卓越した知的人材の育成を図る。</p> <p>すなわち、不断に高度化し複雑化する現代社会、さらに近年グローバル化の進展の著しい国際社会の中で、日々新たに生起するさまざまな法的・政治的問題に対し、基礎的・学問的な視点と先端的・学際的な視点の両者から鋭く分析のメスを加え、その成果をもとに、法科大学院や公共政策大学院に新たな独自の知見を提供する人材を育成する。</p>
理学研究科	<p>自然の真理を解き明かす自然科学の創造と発展を推進し、人類の自然についての知識を豊かにするとともに、社会の進歩への貢献及び国際的研究環境下で先端理学研究を先導できる質の高い人材を育成することを目的とする。</p>
医学系研究科	<p>以下の人材を育成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学問に対する強い探究心を持ち、常に目的意識を持って医学領域の諸問題の解決に挑戦して問題解決を成し遂げることができるのみならず、問題を発見することができる人材 ・最先端の専門的知識を備え、世界水準の研究を理解するとともに、新たな発想に基づき、未知・未踏の研究課題に取り組む創造力と行動力のある人材 ・外国人や社会人に対する門戸を開放し、国内外で幅広く活躍できる人材 ・国際的視野と幅広い教養と豊かな感性に支えられた倫理性を持ち、かつ、高度な専門的知識の実践により、健全なる地域社会と国際社会の形成に貢献する人材
工学研究科	<p>博士前期課程では、研究を遂行する上で必要な幅広い基礎学力を習得し、研究課題を独自の発想により展開させ、論文としてまとめて学会にて発表する能力を備えるとともに、広い視野に立って、専門分野における研究能力、或いは研究・技術指導のための基本的能力と高度技術を備えた人材を育てる。</p> <p>後期課程では、社会的ニーズを視野に入れて研究課題を開拓し、独自の発想からその課題を展開させ、国際水準の論文をまとめて国際会議にて発表する能力を有するとともに、研究経験をもとに関連の専門分野においても主体的に研究が遂行できるだけでなく、将来とも自己啓発をしながらリーダーとして広い視野に立って研究を指導できる人材を育てる。</p>